

2017 年度 学校法人三幸学園 仙台ビューティーアート専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 岸本拓也

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 村松千秋

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1 重点施策振り返り

平成 29 年度は、三幸学園が目指す職業人像「誰かのために働く」を目指した人材育成を行う上で、「基本に忠実」を基本軸に持ち、現場で必要とされる人材教育を行ってきた。

また、心の面(社会人、目指す職業・目標、生活習慣)と、技術知識面(授業内容から何ができるか)の両面を強化するため、挨拶指導、社会の基本に忠実な指導と共に、アウトプットしたくなる授業、人に教えたいくなる授業展開を強化することができた。

同時に、産学連携やボランティアに積極的に参加することにより、生徒自身の技術力・接客力を発揮する場を設け、意欲向上につなげることが出来た。

■29 年度目標と結果

退学率目標・・・6.5% ⇒ 結果…9.1%

精皆勤率・・・45% ⇒ 結果…35.3%

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 課題

- ・ 目指す業界では「自ら考え行動する」ことが求められる。この「自ら考え行動する」ことを日々の授業や就職指導において意識して指導していく必要がある。また、長く働くことが出来る人材育成が必要とされる。
- ・ 教員側が業界の動向を把握し、就職現場がどのような技術・人材を求めているのかのニーズを、把握することと、その情報を、授業と就職指導を行う、教員全体がより深く知っておく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 就職先となる各サロン様へのニーズのヒアリングや、卒業生のその後の動向などを把握して専門学校教育の授業や就職指導に反映させる。また、職業理解をさせることで実際に働いたときをよりイメージさせ、働く意味を理解させる。
- ・ 学校の教育(技術、知識面・心構え・コミュニケーション力)が、今の若者や、現在の社会のニーズに合っているのかを把握していく。

③ 特記事項

- ・ 現場力を高める教育では、株式会社友美様(サロンワークの授業)、ガモウ株式会社様(教材納入、コンテストや講演会など美容業界の情報提供)、小林豊子きもの学院(着付けの授業)、セブンブリッジ様(サロンワークの授業)など企業との連携を昨年よりも強化して行った。
- ・ 産学連携・ボランティアの推進を行い、学校の授業が、どのように社会で繋がっているのかを知る機会を多く持つことができた。産学連携やボランティアの提供先としては、芸能事務所、映画撮影、テレビ撮影等でのメイクやヘア、アシスタントなどの専門技術の提供であったり、プロスポーツ会場や、大規模商業施設でのお客様サービスの模擬店舗運営などで、接客を学びつつ、メイク・ヘアアレンジなどの専門技術の提供ができた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 現場で即戦力となるためには、明るく、元気で、素直、報連相ができる人材、また、自ら学ぶ、自ら行動すること、人間関係の構築ができる人材が求められる (井上様)
- ・ 主体的に動ける人材が必要。(高岸様)

(2) . 学校運営

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

- ・教育業務を行う上で、職員室での運営機能の向上が求められる。事務的処理、会議運営、振返り改善などをより高いレベルでシステム構築し、常に業務改善を行い、効率化を図ることが必要とされる。
- ・学校運営面ではコンプライアンス遵守の理解と実践、また生徒指導面ではハラスメント防止や生徒の多様化の理解などが求められている。

② 今後の改善方策

- ・業務のシステム化・マニュアル化、情報システム化による業務効率化を進める。
- ・部門内業務（検定試験、就職管理・実習管理、授業科目管理）などフローの再点検と、人員配置の見直しによる業務の効率化を図り、教育にかける時間を増やしていく。
- ・教務事務の採用し、事務的業務の軽減(29年1月より)

③ 特記事項

- ・年2回の全教職員参加の全体会議の実施による、運営方針の浸透や情報共有ができています。
- ・教員同士の授業交換や、実技授業を一人体制から2人体制に増やすなど教育の質の向上に努めた。
- ・ハラスメント規定の整備（アカデミックハラスメントなどの防止を図る）や勉強会を定期的実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・分業化の工夫として、チェックアウトは自動処理で行う、ストリートビューで物件を見学するなどの工夫を行っている。(高岸様)
- ・サロン側の分業化では、各分野の仕事(スパニスト、カラーリスト等)を分業することで、一人のお客様に対しサービスが向上した。また、夜の研修よりも朝の研修を実施したり、プレゼンは動画がスカイプで商品紹介などの工夫を行い、働き方が変わった。(井上様)
- ・情報伝達の方法とし、企業では、マニュアルは全てiPadを使用し、書類は後日届く。メールやLINEで効率的に業務を行っている。(伊藤様)

- ・美容室での雑誌もタブレットで見せている店舗も増えてきている。(野田様)
- ・ハラスメントで学校が気を付けなければならないこととし、生徒はホームルームを録画したり、録音したりできる。受け取る生徒はとても敏感なので、発言には十分気を付ける必要がある。(村松様)

(3) . 教育活動

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・現場により近い環境を整え、やりがい、達成感、厳しさ、行動力など現場力を身に付ける必要がある。
- ・生徒の授業アンケートや卒業生アンケートは前年度の結果を常に意識し、個々の先生が結果を受け止め自分の授業の振り返りと改善をしていかなければならない。

② 今後の改善方策

- ・授業アンケートや卒業生アンケートの結果に対し、重点項目を絞り、新年度の改善項目を明確にしよりよい教育に取り組む。
- ・実習先においては学校教育に理解のある企業が増えてきており、繋がりが出来て来ているため、今後は生徒の希望地域で実習サロンが確保出来る様、開拓を進めていく。また実習先で注意をうけたことを、教員間で情報交換し、改善する。

- ・コンテストを通して生徒自身が技術力を試し、より成長が実感できる教育を目指す。
- ・業界の変化に伴い、現場により近い知識や技術が提供できる様、常に最新のシラバスや授業内容を目指す。

③ 特記事項

- ・平成 29 年度には、多数の企業の皆様に授業指導や就職指導に協力をいただいた。
J's 様（就職指導、モチベーションアップのための講演）、的場亮様（社会で必要な考え方の講座）
ほか、生徒が学ぶ機会多数（一生美容に恋する会、ピアス株式会社様）

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・専門学校で教えてほしいこと（授業）とし、情報を人に伝える力や、商品売る力（店販）が必要であり、専門学校でも教えてほしい。（井上様）
- ・ビジネスマナー、社会人の心構えを教えてほしい。また、ビジネス文書が作成できない新入社員などもいるため、学校で学んできて欲しい。（高岸様）
- ・お金をもらうということ、働くということがどういうことか、プロとしての立ち居振る舞いなど基本を学んできて欲しい。（野田様）
- ・社会に出てからの勉強の仕方の工夫は SNS の普及でお客様の知識が高いので、自分で例え話を加えたり、現場の先輩に聞いて対応している。（伊藤様）
- ・教員側も、時代のニーズ、生徒の年代が育ってきた環境や、現代の日本の教育を知り、対応することが必要である。（村松様）

（４）．学修成果

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・生徒が希望している就職先の動向を常に把握し、教員が新しい情報を就職指導内で発信する。
- ・退学率低減のための、下記のような生徒の生活面や心理面での指導・サポートが必要である。
→精神的に弱い生徒への指導やサポート（強く叱ると精神的に落ち込む、集団行動ができない）
→学力が著しく低い生徒への指導やサポート（会話や文章の能力が低い）
- ・業界の現場との差が生じないよう、社会の考えを取り入れた学生指導を日々取組み、離職率減少に繋げる。
- ・卒業生がどこの企業でどのように活躍をしているか発信することで就職への意欲を高める。

② 今後の改善方策

- ・就職先が求める人材を聞いたうえで、生徒への求人提案を行う。（ズレやギャップをなくす）
- ・生徒には、社会の厳しさや人間関係の大切さを伝えていく。

・卒業生がいる就職先の案内を強化することで、就職先に対する不安の解消を図る。

③ 特記事項

- ・卒業生のWEBサイトの開設や、卒業生向けFACEBOOKで、学校が卒業生へ求人や学校情報を発信する。
- ・新しい担任には、副担任を設置しきめ細かい生徒指導を行う体制を敷いている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・サロン入社後1か月の研修を経て、配属されるが、その時の人間関係が良く最初は楽しんでいる様子が見受けられるが、支店ごとのやり方に違いがあるようで、SNS等で繋がると悪い方向へ進んでしまう(離職)こともある現状。

その一方で、初任給で親へのプレゼントをしたり、入社式にて本人へ両親からの手紙を渡すなどの工夫で、離職を防いでいる現場もある。(井上様)

・女性が安心して働ける会社になることが必要。(シフトを柔軟にする、突発的なことにも対応する、産休育休制度の有無)(野田様)

(5) . 学生支援

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・学生の相談にのる体制はとれているが、生活面や経済面での具体的な支援体制は十分と言えない。
- ・保護者への確認、報告、相談などの連携は取れているが、言葉が足りず、または受け取り方の相違等で、誤解を招く場合もあり、対応は十分でない場合がある。

② 今後の改善方策

- ・入学前、学期ごとなどには、保護者様への定期連絡(入学後の電話がけ、クラス替え後の電話がけ等)を行う。
 - ・生徒が、自身の悩みなどを相談しやすい雰囲気づくり、また担任に伝えやすい環境をつくる。
- また、授業内においても学生の変化(表情・態度・体調など)に気付き、教員間で情報共有の強化を行う。

③ 特記事項

- ・心理カウンセラーを設置しており、毎年延べ10人程の生徒が利用している
- ・課外活動にて、産学連携やボランティアの活動を、積極的に行っている。
- ・高等学校の総合学習や進路学習へは、依頼を受けた場合は積極的に協力している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・なかなか学校の目が届かないプライベートな時間となる寮の生活だが、寮では、寮長寮母様が小さなことにも気づく目を持ち細かな声がけなどで、生徒の保護者様とも連携をとっている。引続き、学校とも連携していく。

(高岸様)

(6) . 教育環境

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・常に質の高い教育環境、体制の整備が求められる

② 今後の改善方策

- ・スマホやタブレット、WIFI を使える環境を整え、スクリーンに映して授業する環境を増やしている。
- ・インターネットや動画を用いた授業ができる環境の設置された教室を増やしていく。

③ 特記事項

- ・海外研修（ロサンゼルス研修、バリ島エステ研修）を任意で実施している。
- ・29年度は教員間による防災マニュアルの読み合わせ、学内においては避難場所の確認・地図の掲示をした。

【報告のみ】

- ・現在わかりやすい授業の実践のため、ICT化授業を推進している。PPTや携帯等 画像や動画で視覚や聴覚訴える授業を実施中。また、生徒自身に、携帯で検索をさせ、自分で情報を取りに行くことを実施中。授業中にスマホから生徒の意見、感想を送信させ、教員がその場で確認できるような授業も展開していく。

(7) . 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切： 3	やや不適切：2	不適 切：1
学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1
入学選考は、適正に行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・宮城県内、東北地区だけでなく、関東への流出(都会への憧れ)が増えてきている。

② 今後の改善方策

- ・関東にはない、仙台の魅力や、仙台で学ぶ意味、メリットをしっかりと伝えていく必要がある。
(掲示物や配布物での納得感ある教員の説明)

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・東北は人と人との距離が近く、密着したあたたかいイメージが魅力。(反対に関東だと冷たいイメージ)
仕事を通じて、地域貢献できていることを伝えていく必要がある。(井上様)

(8) . 財務

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切： 3	やや不適切：2	不適 切：1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者委員会コメント

なし

(9) . 法令等の遵守

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・今後も継続した法令遵守の推進が求められる。

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員の法令遵守に対する啓蒙を図る。
- ・個人情報保護法など、毎年継続し繰り返し法令の正しい知識を教職員に伝えていく。

③ 特記事項

- ・全体会議、担任会議にて、定期的にコンプライアンス研修や、女性が働きやすい職場を作るための研修、若者の学力低下に対応するための研修などを行っている。

【報告のみ】

- ・年間時間外を 320 時間を目標に、日々の退勤時間を意識させる、1日の時間の使い方を管理している。
また、時期や業務量に応じての出退勤時間に臨機応変に対応している現状。

(10) . 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

・在校生の活動（教育）、学校 PR 活動（広報）面での社会貢献や地域貢献は積極的である。しかし地域に対する公開講座、教育訓練などは積極性が求められるので、今後サロンワークの授業にて、近隣の地域の皆様を学校にお招きするような機会を作っていく。

② 今後の改善方策

・上記のサロンワークの積極的実施。

③ 特記事項

【主な産学連携・ボランティア・社会貢献・地域貢献の具体的内容】

大規模商業施設への技術提供・イベント協力・プロスポーツチーム、
スポーツ関係への生徒協力・ファンサービス・被災地支援活動への協力
乳がん啓発活動等 生徒の活動支援・技術提供

近隣への学校開放 エステ、ネイル、メイクの模擬サロン

テレビや雑誌、映画など撮影のためのヘアメイク等に生徒による技術提供を行う

(11) . 国際交流 (必要に応じて)

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・ 留学生に対する受入れに関する職員の理解が必要

② 今後の改善方策

- ・ 三幸学園の本部が策定した留学生受け入れのマニュアルに沿った受入を行う。

③ 特記事項

- ・ 留学生入試マニュアルを整備済みである

【報告のみ】

- ・ 18歳人口の減少などで、今後ますます留学生の受け入れ体制を整えていく必要がある

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・ 現場即戦力とし求められる人材は、明るく、元気、素直であること。
自ら学び、自ら行動ができ、人間関係の構築ができる人材であるため、日々の学校生活や授業を通し、指導をしていく。
- ・ 社会人1年目で必要なスキルや考え方を学校側で指導する。
(ビジネスマナー、ビジネス文書の作成、社会人の心構え、お金をもらうとはどういうことか、働く意味など)
- ・ 教員側も、時代のニーズ、生徒の年代が育ってきた環境や、現代の日本の教育を知り、対応していく必要がある。
- ・ 情報伝達の方法として、企業では iPad や LINE、メール、スカイプ等を利用し、効率的に業務を行っているため、学校でも引続き、メールの活用方法など指導していく。また、学校側もペーパーレス化に取り組んでいく。